

辯護側文書一四〇一—S—二號

野村等東郷宛一九四一年十一月二十三日 第一一六〇號

往電第一一五九號ニ關シ  
來栖ヨリ

二十二日ノ會談ニ付打合ノ爲メ二十一日日本使「ハル」長官ト三十分ニ互  
リ私的會談ヲ遂ケタルカ長官ハ三國條約ノ問題ニ關シ本使カ十八日會談ノ  
際同條約ヲ *Out share* スルカ如キ重要ナル協定云々ト述ヘタル點ハ「ハ  
ル」モ頗ル妙案ト思考スル次第ナルカ「ハ」ハ日米兩國カ太平洋平和維持  
ノ爲ニ協力シ以テ世界平和建設ニ貢獻スルハ其ノ衷心ヨリ念願トスル所ニ  
シテ嘗テ倫敦經濟會議ノ際石井子爵、深井英五氏等ノ日本代表ト肩ヲ並ヘ  
テ通商自由ノ爲メ戦ヒタルハ今猶欣快ナル記憶トシテ保有シツアル次第  
ナリ「ハ」ハ本來日本カ東亞ノ指導タルコトモ極メテ當然ニ思考シオリ  
又表現聊カキコチナキ點ハ別トシ所謂大東亞共榮圈ノ理念モ理解ニ吝ナ  
ラス日本カ武力ニ依ル他國制壓ヲ以テ之ヲ達成セントスルモノニ非サル限  
リ米國トシテハ何等之ヲ妨害セントスルモノニ非ス自分トシテハ日露戰爭

Def. Doc. #1401-S-2

直後日米兩國カ一方ハ東亞ニ於テ他方ハ西半球ニ於テ夫々指導的地位ヲ保持シツツ親善協力ノ關係ニ在リタルカ如キ時代ノ再現ヲ欲シテ已マサル次第ナリト述ヘ今日兩國カ右様ノ心構ヘヲ以テ太平洋平和ヲ協定スルト同時ニ日本ハ三國條約カ右協定ノ實施ヲ妨害スルモノニ非サルコトヲ闡明セラルルモ亦一ノ行方ニアラスヤト信スト述ヘ居リタリ

事態切迫乙案ニ對スル米側ノ諾否如何ニ依リ交渉ノ決裂已ムヲ得スト迄セラレツツアル今日ニ及ヒ右様構想ノ檢討ハ或ハ迂遠ニ失スヘキモ何ノ道冒頭往電豫想ノ通り月曜日(二十四日)「ハル」ヨリ太平洋協定ニ關シ何等カ申出來ル場合モ有之ヘキニ付或ハ此ノ際打開策トシテ右御利用ノ御考ヘ等モアラハ至急何分ノ儀御回電アリタシ